



愛郷無限

土屋館
どや
だて 通信

発行者：大曲・花火通り商店街
文責：辻

お問い合わせ：080-1265-7035
tuck-t@akita-tsujiya.jp

2015年7月3日号 NO.520

写真提供：大山市

Subject：明日は商店街の七夕花火大会

明日7月4日(土)は花火通り商店街の七夕花火大会。以前は、やれ花火数が少ない・しょっぱいな、規模が小さい、花火の街・大曲として恥ずかしいなのと言いたい放題に酷評されていた街場の小さな花火大会でした。

10年ほど前から市内の保育園・幼稚園・小学校・養護学校に協力してもらい、児童が願いを書いた短冊を笹竹に飾ってもらい、その七夕飾りを商店街へ掲示するようになりました。お金がないので笹竹は商店街役員が自分達で山から切り出します。今ではその七夕飾りが30本弱まで増えました。また園長先生・校長先生から子ども達への思いをメッセージにしたためていただき、花火一発一発にメッセージを添えて打ち上げる花火を工夫したり。そして花火だけでない愉しみの場、子ども達の思い出の場を作るために【夕焼け音楽祭】と称して、丸子橋の空き地で全国レベルの大曲小学校と花館小学校のマーチング部から屋外で演奏してもらったり。個々の演奏も素晴らしいですが、ここ数年前からはライバル同士が何と合同演奏してくれる恒例行事となりました。西山背景の夕焼けの中、街場の屋外で沢山のお客さんを前に演奏する経験は、子ども達にも脳裏に深く刻み込まれ、良い思い出になるようです。

毎年、観に来てくれるお客様は格段に増えつつあります。特に地元の子どもの姿がとて多いことが我々にとっては何より嬉しいことです。街商(テキ屋)さんの露天出店数とその人気ぶりを如実に物語っています。8年前の出店はわずか3軒、それが子ども達・親子連れが年々増えるその盛況ぶりに比例しながら徐々に出店数が増え、今や14軒になっています。さらに何よりも嬉しいのが、地元大曲小・中学校では生徒達が数週間前から七夕花火に何を着ていくか、誰と行くか等、子ども達の話が七夕花火で持ちきりになっているということ。七夕花火の夜には、親が子ども達だけの外出を認めてくれるようになっており、市民夏まつりと共に、子ども達にとっては無上の喜びとなっているようです。これこそ地域祭りの存在意義の一つであることは間違いありません。大人に近づくための儀式として必要だと思っています。例年花火終了後も子ども達は愉しくて一時間近くも帰りません(笑)花火に大金をかけられない貧乏商店街だからこその工夫だったのですが、美しい花火をただたくさん打ち上げれば良いというのではなく、誰に来てもらいたいのか、誰にどのように愉しんでもらいたいのか、その人達がどんな気持ちになって欲しいのかを真剣に考え、そのための場を我々自身が汗を流して作っていくということなのだと思えます。そして何よりもそれを続けること。

お手伝い、ヒトが足りません(笑)

いつもの事ながら運営にもぜひぜひご協力を(誰でもウェルカム!)

7月4日 朝6時……丸子橋集合(河岸へキャンドル設置 2時間程度)

7月4日 夕方17時……丸子橋集合(河岸のキャンドルへ着火作業・交通警備)

7月5日 朝6時……丸子橋集合(河岸のキャンドル撤収 1時間程度)